

# 2023年度アートマイル国際協働学習プロジェクト実施報告

## Artmile International Collaborative Learning (AICL)

一般財団法人ジャパンアートマイル (JAM)

(一財) ジャパンアートマイルは、背景が異なる海外の人々と協働して新しい価値を生み出す人材の育成を目指して、2023年度アートマイル国際協働学習プロジェクト（後援：文部科学省・外務省）を実施しました。前年度に課題となった「論点を明確にした議論」ができるように、「論点を定めて議論する協働学習の流れとポイント」を分かり易く示す資料を提供して参加校のサポートを行いました。その結果、議論を発展的に繰り返して学習の質が上がる学校が増えました。他の模範となる実践をした学校には、文部科学大臣賞、外務大臣賞、財団特別賞を授与しました。

### 1 国内・海外の参加校

2023年度アートマイル国際協働学習プロジェクトには、16の国・地域から、44校1,510名の児童生徒が参加しました。

#### 【参加都道府県】13都道府県

宮城県、茨城県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、岐阜県、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県、広島県、山口県

#### 【参加国・地域】16国・地域

インド、インドネシア、エストニア、クロアチア、サウジアラビア、台湾、チュニジア、チリ、日本、パキスタン、ブラジル、ベルギー、マダガスカル、メキシコ、ラトビア、リトアニア

#### 【参加校・参加児童生徒】

参加校数：44校（日本22校、海外22校）

参加児童生徒数：1,510名

（日本862名、海外648名）

#### 【参加校一覧】

NO	国・地域	日本校	海外校
1	Belgium ベルギー	東京都 東京都市大学等々力 中学校・高等学校	GO! Busleyden Atheneum Pitzemburg
2	Brazil ブラジル	京都府 木津川市立木津南中学校	Instituto GayLussac
3	Chile チリ	大阪府 追手門学院中・高等学校	Liceo Bicentenario de Excelencia Domingo Ortiz de Rozas
4	Croatia クロアチア	兵庫県 県立太子高等学校	Privatna Sportska I Jezicna Gimnazija Franjo Bucar
5	Estonia エストニア	山口県 山口市立湯田中学校	Tamsalu Gymnasium
6	India インド	兵庫県 県立芦屋国際中等教育学校	Suncity School
7		兵庫県 県立芦屋国際中等教育学校	Christ Nagar Higher Secondary School
8	Indonesia インドネシア	広島県 尾道市立瀬戸田中学校	SMP Negeri 6 Surabaya
9		宮城県 宮城県宮城野高等学校	SMA Santo Paulus Pontianak
10	Latvia ラトビア	千葉県 船橋市立船橋高等学校	Talsi State Gymnasium
11	Lithuania リトアニア	愛知県 豊橋中央高等学校	Laurynas Ivinskis Gymnasium

12	Madagascar マダガスカル	愛知県 東浦町立緒川小学校	The Excelsior School
13		岐阜県 県立恵那高等学校	Lycee d'Enseignement General Ambatolampy
14	Mexico メキシコ	兵庫県 赤穂市立有年小学校	Comunidad Educativa Yaxunah
15		愛知県 名古屋市立丸の内中学校	West Heights International School
16	Pakistan パキスタン	広島県 世羅町立世羅中学校	Mansehra Public School & College
17	Saudi Arabia サウジアラビア	東京都 東洋女子高等学校	International Programs School
18	Taiwan 台湾	埼玉県 埼玉大学教育学部附属小学校	National University of Tainan Affiliated Primary School
19		茨城県 牛久市立おくの義務教育学校	Wen Ya Elementary School
20		兵庫県 赤穂市立原小学校	Ying-Qiao Elementary School
21		茨城県 県立下妻第一高等学校 附属中学校	Lu Jiang International School
22	Tunisia チュニジア	神奈川県 横浜市立本宿中学校	Rejiche Youth House

## 2 アートマイル国際協働学習

アートマイル国際協働学習は、海外のパートナー校とICTを活用して、世界の課題をテーマに対話的・協働的に学び合い、学習の成果として壁画を共創するプロジェクトベースの学習です。

海外校との協働学習はJAMが提供するインターネット上のフォーラムを使って行います。

### (1)アートマイルで育てたい力

アートマイル国際協働学習では、次の5つの力を育てることを目指しています。

#### ①異文化を理解する力

世界と出会って異文化を理解する力  
自分たちの良さに気付いて自文化を理解する力

#### ②主体的に考え行動する力

世界に共通の課題に対して主体的に考え、  
相手に働きかけて学習をリードする力

#### ③批判的に思考する力

外からの視点で客観的にものを見て、  
論理的・批判的に考える力

#### ④多様な他者と対話・協働する力

多様な考えを持つ相手と議論し、合意し、  
協働して新しい価値を生み出す力

### ⑤想いを表現する力

世界の人に伝えたい想いを言葉で表現する力  
想いを絵で表現する力

### (2)学習テーマ

協働学習のテーマは社会が直面している世界共通の課題です。それぞれの地域の課題をSDGsに関連付けて共通の目標を選び、学習テーマとします。

SDGsは2030年までに解決すべき世界共通の目標です。SDGsの17のゴールはあらゆる社会問題を含み、しかもお互いに関連し合っているため、容易に相手と共通のテーマを決めることができます。

遠く離れた海外の相手と、今起きている問題を自分事にして議論を重ね、解決策を考え、自分たちの結論を生み出します。



### (3) 段階を追って進む国際協働学習

アートマイル国際協働学習は、次の5つの段階を追って進みます。

- 1. 調べ学習** 自校での調べ学習(6月~7月)
  - ・相手と相談して決めた共通のテーマについて自校で調べ学習
- 2. 共有** テーマ学習の共有(9月)
  - ・自校で調べたことを相手と共有
  - ・課題と解決策について意見交換
- 3. 融合** 想いを形に(10月)
  - ・多角的、批判的な視点で議論
  - ・自分達の未来について両方の想いを合わせてメッセージを作成
- 4. 創造** 壁画制作(日本11月-12月/海外1月-2月)
  - ・メッセージを込めて壁画を共同制作(先に日本側が半分を描いて相手に送付、海外側が壁画を完成させて日本に返送)
- 5. 評価** 振り返り(3月)
  - ・相手から届いた完成壁画を鑑賞
  - ・学習全体を振り返って自己評価

国際協働学習で特に重要な段階が、調べたことを共有し、議論を重ねて自分達の想いを生み出す「共有」と「融合」です。

### (4) JAMの学習支援

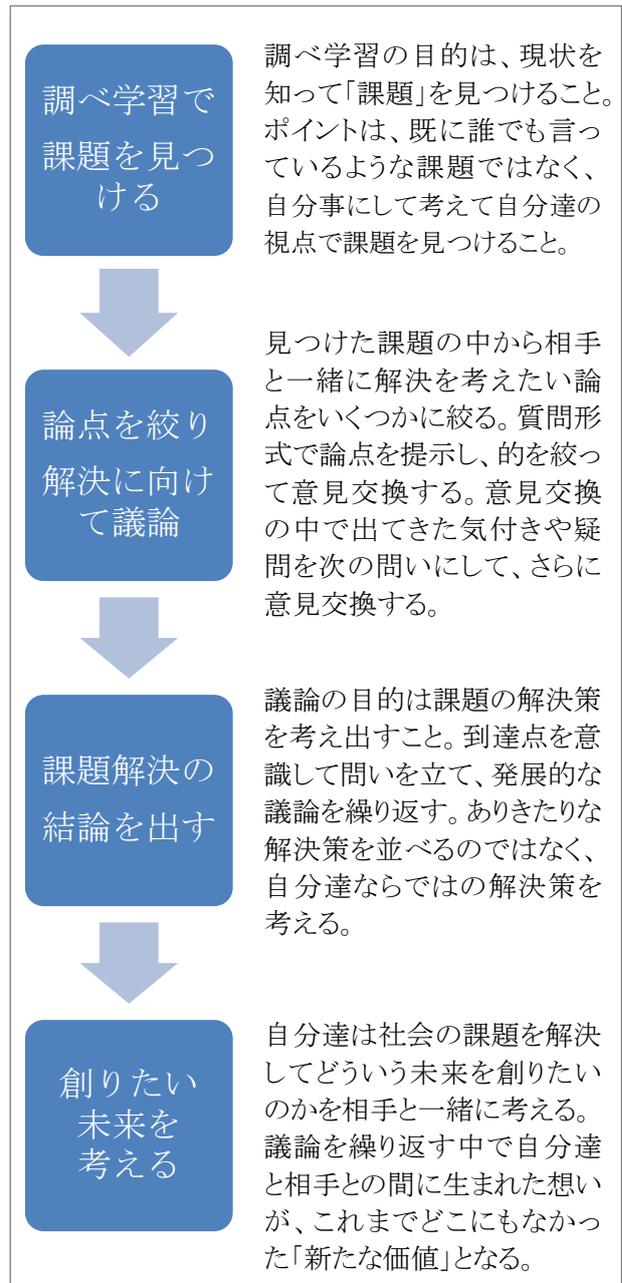
JAMは参加校が年間の見通しを持って相手校と協働学習を進めることができるように、学習の指針となる「カリキュラムモデル」と学習の各段階で何をすればいいかが分かる「To Do リスト」を提供しています。また、教師用のメーリングリストを立ち上げて、適時役立つ情報や注意事項を知らせ、参考になる他校の学習事例を紹介しています。

### 3 論点を明確にした議論

一般に日本人は論理的に議論するのはあまり得意ではないので、文化背景が異なる相手との議論となると、自分達が考えを伝えただけで終わってしまい、発展的な議論に至らず、学習が深まっていけないことがしばしば見受けられます。

「どうすれば発展的に議論をすることができるのか？」議論の質を高めるためには、「論点」を定めて議論することが肝要です。そこで、「論点を定めて議論する流れとポイント」を分かり易く示す資料を作成し、参加校に提供しました。

### ■ 論点を定めて議論する協働学習の流れとポイント



「論点」を絞って相手と話し合うことにより、言いつ放しにならず、到達点を念頭に議論が深まるどころが増えました。

## 4 学習の成果

今年度は「論点」を明確にして議論することで多くの学校で学習の質が上がりました。その成果として児童・生徒にどのような成長が見られたのか、教師自身にどのような変化があったのか、報告書とアンケートから紹介します。

### (1) 児童・生徒の意識の変化

- ・相手校の子ども達の取り組みについて「いいね、すごいね」で終わるのではなく、どのようにしたら日本でも、自分達でも実現できるかを考える児童が多くいて、募金活動やバザー、LINEスタンプなど多種多様かつ実現可能な案が次々と生まれ、問題解決への意欲が高まりました。(小学生)
- ・児童にとってグローバルな視点とローカルな視点を往還する貴重な機会となりました。(小学生)



- ・世界には「食や健康」「貧富の差」など様々な問題があることをインドとの学習の中で実感し、自らの普通の生活がどれだけありがたいものなのかを再認識していました。しっかりとテーマ学習に時間をかけたからこそ、世界が抱えている問題に真摯に向き合い、深い学びとなったように思います。(中学生)
- ・相手は発展途上国という印象が強かったけれど、意見を出し合って対話をする中で、相手国との違いが多くてもより良い考えにつながることに気づき、先入観にとらわれず互いの国の良いところを取り入れることが大切だと気がきました。(高校生)
- ・テーマについてのグループ内議論においても、Zoomでの発表においても、壁画の絵の構成に関しても、各グループで熱心に議論し、「自分事」として課題を見つめ、この活動に貢献しようという態度が随所に見られました。(高校生)

### (2) 教師の意識の変化

- ・違いを受け入れて楽しめるようになり、世界は思ったより近いと思えました。(小学校)



- ・内閣官房の教育未来創造会議の第二次提言にある「2033年までに中高生のオンラインでの国際交流100%」という目標を叶えるのに最前線の素晴らしい取り組みだと思います。(中学校)
- ・SDGsで調べたことをテーマに、1本の木を世界の仲間と一緒に育てていこうとする意味を感じられる作品をつくることができ、本当の意味での国際理解に向けた取り組みの第一歩を踏み出すことができたと感じています。(中学校)
- ・アートマイルプロジェクトは、本校の目指す教育の姿に沿った活動であったと感じます。この活動を通して、異文化理解や多様な他者との協働、主体的に考え行動する力など、生徒が成長する姿が見られたことは勿論、自分自身もとても成長するきっかけになりました。(中学校)
- ・相手とビデオ会議をする際、生徒が発言したい内容を即座に英語で、生徒自身の言葉でレスポンスできるようにレベルアップを目指したいです。(高校)

## 5 文部科学大臣賞・外務大臣賞・財団特別賞授与

2021年度・2022年度に続き、優秀な実践を行った学校に文部科学大臣賞と外務大臣賞を授与しました。また、本年度は大臣賞に加え、同じく優秀な取組をした学校に財団特別賞を授与しました。

選校に当たっては、2023年10月に選考委員会を発足し、相手校との協働学習に主体的に取り組み、持続的にコミュニケーションをとって学びを深めた学校が選校されました。

## ■文部科学大臣賞

ブラジルの Instituto GayLussac と協働学習を行った京都府木津川市立木津南中学校に文部科学大臣賞が授与されました。



### <審査員評価>

木津川市立木津南中学校の美術部の生徒たちとブラジルの Instituto GayLussac 校との協働学習である。テーマとしては SDGs4「質の高い教育をみんなに」と16「平和と公正をすべての人に」に着目し、いじめ、不登校など学校の身近な課題についての議論と、平和・公正な社会をつくるための取り組みとを結びつける議論を展開した。フォーラムではグループごとの意見をもとに、互いの共通点・相違点を掘り下げるやりとりが展開され、壁画のアイデア、構図についても活発な意見交換がなされた。協働学習としての深まりがみられたことを評価した。

### <生徒の感想>

- ・壁画には「個性が尊重され、社会的な平等のない未来を創りたい」という想いを込めました。私達が大切にしたい「個性が尊重される」という言葉には、多様性、平和の権利、国の文化の尊重、いじめ・不登校の問題の解決、国と国の友好という意味を含んでいます。
- ・今回のアートマイル活動で、前よりも部員の間で交流することが増えたなと感じています。活動が始まったばかりの頃は同じ学年の人以外と話すことがほとんどなかったのですが、今ではいろいろなことについて話すことが多くなりました。
- ・今回海外の相手との話し合いで、相互理解する力、発想力、想像力などを得ることができたと思います。これを今度の自分に活かしていこうと思います。

## ■外務大臣賞

インドネシアの SMA Santo Paulus Pontianak と協働学習を行った宮城県宮城野高等学校に外務大臣賞が授与されました。



### <審査員評価>

宮城県宮城野高等学校の国際・語学ゼミナールの生徒たちとインドネシアの SMA Santo Paulus Pontianak 校との協働学習である。テーマとしては SDGs6「安全な水とトイレを世界中に」とSDGs7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」である。現在の課題、できることと将来できそうなことについて対話を重ね、キーワードを見出すまでの一連の流れを整理するためのワークシートを作成・共有し、論点を明確にした議論ができていた。壁画のメッセージ、構図の工夫についても議論を重ね、作品づくりの過程においても作品の改善アイデアが提案されるなど、協働に表れていることを評価した。

### <生徒の感想>

- ・私たちはインドネシアのパートナーと「安全な水」「産業と技術革新」をテーマに話し合いをしました。しかし、解決策を模索すればするほど、地域格差や政策が両国で異なり、国や地域を超えた連携が必要だと実感しました。
- ・私たちがこのプロジェクトで得たことは、単に知識ではありません。異なる文化背景や価値観を持つ仲間との交流は、新しい視点や着想の源となり、グローバルな感覚を養うことができました。
- ・違う文化背景を持つ人々と協力しながらプロジェクトを進める経験により世界の「つながり」を体感したことは一生の財産です。
- ・アートマイルで得たスキルやマインドセットをこの先グローバル社会の中で活かしていきたいと思っています。

